

島原半島を世界ジオパークに



島原半島ジオパーク推進連絡協議会会長

島原市長 よこ た しゅういちろう
横田 修一郎

1969年 中央大学法学部卒業
長崎県庁入庁
2001年 長崎県商工労働部長
2003年 長崎県地域振興部長
2006年 長崎県教育長
2008年12月 第19代島原市長就任

はじめに

島原市、雲仙市、南島原市の3市は、連携して島原半島地域の地質資源を整備するとともに、世界ジオパークネットワーク加入の認定をめざして取り組みを進めています。島原半島は、雲仙火山や千々石断層など様々な地球科学的現象を観察できる場所があることや、これまでの取り組みが評価され、昨年10月20日、日本ジオパークの第1号に認定されると同時に世界ジオパークの候補地に選ばれました。世界の候補地となったのは、島原半島、糸魚川（新潟県）、洞爺湖・有珠山（北海道）の3地域です。世界に向けては、昨年12月、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）内にある世界ジオパークネットワーク事務局に英文の申請書を提出しました。現在、海外の審査員による書類審査が進められています。今後、審査員による現地視察などが予定されており、年末までには世界ジオパークネットワーク加入の可否が決定されることになっています。

1. ジオパークとは

ジオパークとは、地質学的に重要な地層や岩石の露頭（地層や岩石が直接見られる場所）および重要な地形などの地質遺産を含む一種の自然公園の制度です。

より具体的には、

1. 地質遺産の保護
2. 教育・普及
3. 地質遺産を用いた観光『ジオツーリズム』

などを行います。

ジオパークの地質遺産は、大学や地質調査機関の協力の下、適切に保護されなくてはならないとされています。そして、地球環境問題を含む地球科学全般に関する教育・普及活動を行います。そういった活動を通じて地質遺産を観光するジオツーリズムを発展させ、地域の振興を図っていきます。

2. ジオパークが目指すもの

具体的には、ジオパークでは地質遺産などを活用し、教育・普及活動を行います。例をあげると、博物館や自然観察センター、自然散策路、ガイド付きツアー、ガイドブックなどにより地球科学の知識や環境の概念を社会に伝えていきます。そうした活動を通じて地質遺産を観光するジオツーリズムを発展させ、それによって地域の持続可能な振興を図ることが目的です。

認定を受けたら終わりというものではなく、定期的な監査が予定され、長時間、持続的に活動を続けることが重要です。

3. 世界遺産との違い

島原半島には「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として世界遺産の暫定リストに掲載された原城跡、吉利支丹墓碑、日野江城跡があります。ユネスコが管轄する「世界遺産」とジオパークはどのように違うのでしょうか。

ジオパークは、世界遺産とは異なり、多国籍間の条約に基づくユネスコのプログラムではありません。ジオパークは地質遺産を保護しつつ、教育や科学の普及などに活用します。保護と活用の両方を重視する点が、主に保護を目的とする世界遺産とは異なる点です。一般の人が近づけない、あるいは保護のためには近づきたくないような場所は、ジオパークとはなりません。また、ジオパークは「場所」だけでなく、そこで行われている活動(と

その活動を行う「人」)が評価にあたって重視されます。

4. 世界ジオパークネットワークとは

2001年6月のユネスコ執行委員会で、ユネスコが地質学的に特別意義のある地域や自然公園の発展を推進するメンバー国の努力を支援することが勧告され、以来ジオパークはユネスコの支援のもと世界各国で推進されています。2004年には世界ジオパークネットワークが設立され、2009年1月現在で、18カ国57箇所のジオパークがネットワークに加盟しています。加盟にあたっては、一定の基準が定められ、ガイドラインとしてまとめられています。その中で、世界ジオパークの一員となるジオパークは、次のようなものであるとされています。

- ・地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- ・公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ・それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。

申請したジオパークが、海外の専門審査員の審査により、これらの基準を満たしていると判断されたとき、世界ジオパークネットワークの一員として認められます。加盟すると、ユネスコのロゴマークの使用が認められ

るほか、それぞれのジオパークがお互いの情報やノウハウを交換し、地質遺産の保護とジオツーリズムの発展のお手本となるような高いレベルのジオパークを目指していくこととなります。

世界に広がるジオパーク…世界18カ国（57カ所）の『ジオパーク』
2009年2月現在

オーストラリア (1)	オーストリア (1)
ブラジル (1)	中国 (20)
クロアチア (1)	チェコ (1)
フランス (2)	ギリシア (2)
ドイツ (6)	イラン (1)
イタリア (5)	マレーシア (1)
ノルウェー (1)	ポルトガル (1)
アイルランド (1)	ルーマニア (1)
スペイン (4)	イギリス (7)

5. 日本での取り組みは

日本においては、2007年5月、学術的観点に観光・教育といった視点も加味した「日本

の地質百選」が選定されました。また、2007年から2009年が国際惑星地球年であることなどにより、地質に対する関心が高まっています。世界や国内でのこうした動きを契機に、2007年12月、ジオパークを推進する地域により「日本ジオパーク連絡協議会」が設立されました。さらに、2008年5月には、国内のジオパークを認定する機関として「日本ジオパーク委員会」が設立されました。委員は大学、学会、関連団体等の専門家11名からなり、ジオパークの認定や、地域の取り組みに対する助言などを行っています。また、関連する外務省、文部科学省、文化庁、農林水産省、林野庁、経済産業省、国土交通省、環境省がオブザーバーとして参加しています。

2008年度、日本ジオパーク委員会に、次の7地域が申請書を提出し、日本ジオパークの認定と、世界ジオパークへの申請候補地が決定されました。

(●は世界ジオパークへの申請候補地)

- 島原半島
- 糸魚川（新潟県）
- 洞爺湖・有珠山（北海道）
 - ・アポイ岳（北海道）
 - ・南アルプス（中央構造線エリア）
 - ・山陰海岸（京都府・兵庫県・鳥取県）
 - ・室戸（高知県）

このほかにも、白滝黒曜石遺跡（北海道）、五浦海岸（茨城県）、小田原・箱根（神奈川県）、ふくい恐竜溪谷（福井県）、島根（島根県）、隠岐（島根県）、御所浦（熊本県）、阿



蘇（熊本県）、霧島（鹿児島県・宮崎県）などの多くの地域がジオパークの取り組みを進めています。

6. 新しい切り口

「地質」から見た島原半島

島原半島では、平成新山をはじめとする雲仙火山や千々石断層の断層崖など、地球が活動している証拠をいくつも観察することができます。火山からは、災害で多くの被害を受ける一方、素晴らしい景観、おいしい湧水や、小浜・雲仙・島原と泉質の違う温泉が楽しめるなど多くの恵みも受けています。『火山との共生』は、私たちの遠い祖先から将来の子孫にまで続く永遠のテーマです。「地質」から見ると、島原半島の新たな魅力がみえてきます。

島原半島で見ることができる地質遺産のうち、主なものを紹介します。

6-1 日本最大の火山災害の名残

つぐも - 九十九島（島原市）

1792年、島原城城下町の西にそびえる眉山が普賢岳の噴火に伴う群発地震により崩壊し、大津波が発生、島原半島と対岸の熊本を襲いました。いわゆる『島原大変肥後迷惑』といわれるもので、死者約15,000人を出す日本火山災害史上最大の惨事となりました。

この島原大変は、1990年に始まった雲仙普賢岳噴火災害とは異なる種類の災害で、当時の噴火活動の推移や城下町が復興していく過



約200年前に大崩壊を起こした眉山と崩れた土砂の名残の九十九島

程の詳細な記録も残されており、平成の噴火と同様、学術的にも大変重要です。

有明海に流れ込んだ土砂は、現在、島原港（外港）周辺に点在する九十九島と呼ばれる無数の小島をつくりました。また、陸上に積もった土砂は、市街地の中に起伏をつくり、現在でも小高い丘や坂道になっています。

6-2 風景の中にある活断層

- 千々石断層（雲仙市）

国道57号線を小浜方面から諫早方面に向



千々石断層の動きでできた断崖

かって走ると、千々石展望所や愛野展望台などの見晴らしの良い展望所があります。千々石海水浴場からこれらの展望所に登る坂道は、千々石断層が動いたことによってできた断崖です。

千々石断層は、東西方向に伸び、断層より南側の地面が落ち込むような動きをする活断層です。鉢巻山や吾妻岳の南側の急斜面、田代原の盆地は、そうした千々石断層の動きによってできました。千々石展望所から眺めると、海岸から山側へ伸びる活断層の崖を身近に見ることができます。

活断層は、火山と同様に地球の活発な動きをしめす重要な証しです。

6-3 世界遺産候補は地質遺産

－原城跡（南島原市）

1637年の島原の乱の時に一揆軍が籠城したことで知られている原城跡も、重要な地質遺産の一つです。

原城跡は、標高30m程の高台にあります。この起伏の少ないなだらかな地形は、対岸の阿蘇から海を渡って流れてきた火砕流によっ



阿蘇の火砕流でできた原城跡のなだらかな高台

てできています。

約9万年前に起こった阿蘇山の噴火は大変規模の大きなものでした。その時の火砕流は、北は山口県の秋吉台付近まで流れ、南は海拔1,000mの九州山地を越えて人吉盆地にまで到達しました。また、上空まで飛ばされた火山灰は、北海道でも見つかっています。

6-4 火山の恵み 温泉

島原半島には、泉質の異なる様々な温泉があります。その中でも、島原半島中央部を東西に横切る雲仙地溝の中にある小浜温泉、雲仙温泉、島原温泉の3つの温泉は、火山の活動と深く関係しています。

雲仙火山のマグマ溜まりは、千々石湾の地下約15kmにあると考えられていて、このマグマ溜まりからでたガスは、たくさんの温泉の成分を含んでいます。このガスが地下水に溶けることによって温泉ができます。島原半島の温泉の泉質は、マグマだまりからの距離や地下水面の影響などによって変わり、小浜温泉は『食塩泉（塩化物泉）』、雲仙温泉は『硫黄泉（酸性硫酸塩泉）』、島原は『重炭酸土類泉（炭酸水素塩泉）』と泉質の違う温泉を楽しむことができます。

7. 今後の課題と展望

5で述べたように、日本からは3地域が世界ジオパークネットワークへ申請を行っています。審査では、ユネスコの基準を満たしていれば3地域が同時に認定されることもあり、

どこも満たしていなければ、全部が認定されないこともあり得ます。3地域が1つの席を争うというわけではないため、協力と連携が必要です。

島原半島ジオパークについては、昨年の日本ジオパーク委員会の現地審査において、次のような指摘がなされています。

- ・わかりやすい、興味を持てる解説板の充実
- ・ジオパークに携わる人材の育成（特にガイドの養成）
- ・地質等を説明したパンフレットやガイドブックの充実

このような課題を、世界ジオパークネットワークの審査委員による現地調査（2009年夏ごろといわれています）までに整備する必要

があります。

島原半島地域には、豊富な地質遺産、自然、歴史遺産、あるいは雲仙岳災害記念館や雲仙お山の情報館など多くの施設があるものの、総合的な活用やネットワーク化はまだ十分とは言えません。「ジオパーク」は、それらを訪れる人に総合的に示し、環境への意識を高め、同時に地域の人たちの積極的な参画を促す解決策となりうるかもしれません。雲仙火山という地域住民の生活に長い間大きな影響を与えてきた地質遺産を活用しようというジオパーク推進の試みは、三市、県、民間組織一体となった地域振興のありかたに新しい光を放つことになると考えています。



島原半島ジオパークのロゴマーク

島原半島をデザイン化し、3本のラインは島原市、雲仙市、南島原市の3市、雲仙火山の裾野に広がる扇状地を表しています。